

植物防疫情報第4号

令和7年8月12日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

トビイロウンカの発生に注意してください！

岡山県病害虫防除所（赤磐市）に設置している LED 灯において、8月5日にトビイロウンカ雄成虫1頭が確認され、県内の他地域についても飛来している可能性があります。なお、これまで県内での巡回調査では発生を確認していません。

栽培ほ場で本虫の発生が多い場合、坪枯れ（写真1）等の被害が発生する可能性があることから、ほ場を確認し本虫の発生があれば（写真2）、防除を徹底してください。

広島地方気象台発表の8月7日の向こう1か月の季節予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件であり、今後の発生状況に注意してください。

<防除対策>

- 1 要防除水準（成幼虫合計で株当たり 10 頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり 0.2 頭以上）を超えるほ場では、直ちに防除を実施する。なお、本虫はほ場内で局所的に生息し株元を好むため、調査に当たっては、ほ場の中央部まで入りながら、なるべく多くの株元をよく観察する。
- 2 農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、表の単剤あるいはその成分を含有する混合剤を安全・適正に使用する。また、散布に当たっては薬剤が株元まで十分到達するよう留意する。
- 3 収穫期に近い場合、薬剤散布は農薬使用基準の収穫前日数をよく確認して行う。



写真1 坪枯れ（令和4年9月13日撮影）



写真2 株元に発生したトビイロウンカ
（令和4年9月13日撮影）

表 水稲におけるトビイロウンカの主な防除薬剤 (令和7年8月現在)

薬剤名	農薬使用基準			IRAC コード
	希釈倍数・使用量	使用時期 (収穫前日数)	本剤の使用回数	
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14日前まで	2回以内	2 B
	500倍 (25L/10a、散布)			
	8～16倍 (空中散布、無人ヘリコプターによる散布)			
キラップ粉剤DL	3～4 kg/10a	14日前まで	3回以内	3 A
キラップ粒剤	3 kg/10a			
トレボンEW*	1,000倍			
トレボン乳剤*	300倍 (25L/10a、散布)	14日前まで	3回以内	3 A
	1,000～2,000倍			
なげこみトレボン*	300～600倍 (25L/10a、散布)	5 葉期以降 (但し、 収穫21日前まで)	7日前まで	4 A
トレボン粉剤DL*	水溶性容器10個 (500ml) /10a	7日前まで		
トレボン粒剤*	3～4 kg/10a	21日前まで		
スタークル・アルバリン粉剤DL	2～3 kg/10a	7日前まで	3回以内	4 C
スタークル・アルバリン顆粒水溶剤	3 kg/10a			
スタークル豆つぶ	3,000倍 (25L/10a、散布)			
スタークル・アルバリン粒剤	250～500g/10a			
エクシードフロアブル	3 kg/10a	7日前まで	3回以内	4 F
	2,000倍			
	500倍 (25L/10a、散布)			
エクシード粉剤DL	16倍 (無人航空機による散布)	7日前まで	3回以内	UN
	3 kg/10a			
エミリアフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内	4 F
	250倍 (25L/10a、散布)			
	8倍 (無人航空機による散布)			
オーケストラフロアブル	1,000倍	7日前まで	3回以内	UN
	200倍 (25L/10a、散布)			
	8倍 (空中散布、無人航空機による散布)			
	16倍 (無人航空機による散布)			
	30倍 (空中散布)			

農薬を使用する前には、必ず農薬ラベルの記載内容を確認するとともに、各単剤の有効成分を含む農薬の総使用回数を守る。

*の薬剤は水産動植物に対する危害が発生しやすい地域および発生するおそれのある地域では使用しない。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用する。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

